

2021年度（令和3年度）

第2回 学校関係者評価委員会 議事録

日 時：令和4年3月28日(月) 18:30～20:00

場 所：福山医療専門学校内1階 会議室（リモート開催）

記録者：清水 麻住

出席者：10名

西川 文雄、篠澤 浩二、灰垣 俊志、東 京太郎、仁泉 健太郎、村上 彰宏、濱藤 春暉、
曾田 修治、藪田 素子、清水 麻住（学園教職員）

欠席者：3名

島田 昌広、望月 重伸、住田 祐輝

1. 開会挨拶

仁泉（副学校長・副委員長）より挨拶

2. 学校長・委員長挨拶

東（学校長・委員長）より挨拶

コロナ禍における医学教育の場において、今年度を振り返り、各学科より実績報告をいただきたい。その「現状」に対してのご意見を委員の皆様からいただきたい。（挨拶の後、議事録作成の指名と議事録署名人の指名があった）

3. 報告事項

本会議の議長に東学校長、記録者に清水事務次長を指名し、下記の議事審議に入る。

議案1 2021年度（令和3年度）における実績について、各学科長から実績報告があった。

濱藤（作業療法学科 学科長）

2021年度実績報告について

- 入学生 目標：40名 実績：40名
- 退学者 目標：5.0% 実績：4.8%
- 国家試験合格率 目標：100% 実績：94.1%

国家試験合格率については課題が残る結果となったが、不合格者など卒業後もフォローを続けながら国家試験合格を目指していく。

【2021年重点事項】

1. 他学年交流の活性

【結果】

1年・2年や2年・3年のペアで学年交流が活性化できた。

互いに学習しあう中で、取り組み方の改善や効率の良い方法で学習意欲の向上が図れた。

仲間意識が生まれることで退学者減少にもつながった。

村上（理学療法学科 学科長）

2021年度実績報告について

■入学生 目標：40名 実績：43名

■退学者 目標：3.0% 実績：4.4%

退学率が前年の倍となったことは非常に危機感を感じている。

個々の関わり方を見直し、学習についてこれない学生のケアを構想していく。

また、教員の指導方法や授業展開も再度見直す必要がある。

■国家試験合格率 目標：100% 実績：79.5%

前年に対して10%以上の向上が図れたことは学習効果が上がったと評価することができるが、次年度は100%の達成を目指したい。

【2021年重点事項】

1. 他学科交流にチャレンジする。

2. OB、OG交流にチャレンジする。

【結果】

1. 1年・2年を対象に救急救命学科合同にて「救命蘇生法」の講習会を開催した。

他学科の学生と交流し、互いに学習しあうことで学習意欲の向上が図れた。

2. オープンキャンパスにてOB学生を招待し、講演会を開催することができた。

学生たちに身近な先輩の姿を見ることで、個々の将来像を再確認することができた。

曾田（救急救命学科 学科長）

2021年度実績報告について

■入学生 目標：40名 実績：21名

■退学者 目標：5.0% 実績：18.4%

1年生だけで9名と多くの退学者を輩出してしまった。

一概に担任の責任とは言えず、学科全体として指導方法を改善していく必要がある。

原因は、学生目線での指導ができておらず、教員からの一方通行の指導があったことだと考えられる。

■国家試験合格率 目標：100% 実績：90.9%

前年同様の結果となり、不甲斐ない。次年度は必ず100%を達成するため、最後の詰めを強化する。

【2021年重点事項】

・他学年交流の活性

【結果】

1年を対象に理学療法学科合同にて「救命蘇生法」の講習会を開催した。他学科の学生と交流し、互いに学習しあうことで学習意欲の向上が図れた。

薮田（看護学科 学科長）

2021年度実績報告について

■入学生 目標：40名 実績：38名

■退学者 目標：10.0% 実績：11.1%

前年より4.3%減少できたが、そもそも高すぎる現状。

5.0%以下に抑えるため、学生指導方法を改善する。

■国家試験合格率 目標：100% 実績：69.0%

開学してから過去最低の実績となった。学生の学力向上につながりが見えないので、手法を改善する必要がある。教員の安定化と授業展開の効率化を図る。

【2021年重点事項】

・学習向上の強化

【結果】

入学者への基礎テストや入学前教育を強化することができた。在学生においても、模擬試験の回数を増加し、強化した。その反動についてこれない学生へのケアも増加した。取りこぼしのないように教員全体で取り組みをしていく。

4. 報告に対する意見

仁泉副委員長

各学科の報告事項に関して具体的な提言をお願いします。

西川様（企業等評価委員）

コロナ禍で実践時間の減少が社会にでた卒業生にどの程度の影響を与えているのかが気になる点であるが、対面授業でやり切ったため、教員の皆さんでしっかりとフォローができていていると感じる。一方で、退学者の増加はなぜ起こったのか？

藪田（看護学科 学科長）

コロナ禍において実習中断や授業変更を余儀なくされ続けてきた。その中でオンライン授業に切り替えることもできたが、学生とのコミュニケーションが今以上に取りづらくなり、実習授業に悪影響があると判断したため、対面で実施した。看護における「実習」は長期間になるため、学生個々の連携は密にしていくことが不可欠である。

村上（理学療法学科 学科長）

同じくリハビリや救命においても同様な効果が見られるため、本校として対面授業を一貫教育として実施してきた。その効果のうち、退学者が増加したことについては指導方法に個々のずれ違いも起きていた。コロナ禍での抑制が多い中で学生たちの思いをすべて汲み取ることができていなかったと感じる。

篠澤様（企業等評価委員）

体調不良の学生いる際にどのように管理していたのか？実習に行けなくなった学生のフォローは学校としてのどのように取り組みしたのか？

濱籐（作業療法学科 学科長）

主には Google クラウドにて毎日の出欠確認を実施してきた。アンケート方式となっているので、登校前に回答していただき、当日の方向性を取り決めていた。学生との連携も細かくとれるので効果的であった。

曾田（救急救命学科 学科長）

実習に行けなくなった学生のケアについては、本科の場合、今年度より文部科学省 VR 研究授業に参画したこともあって、事前あるいは事後の実習授業に効果的に実施できた。

藪田（看護学科 学科長）

本科は、行けなくなった学生には基本的に補講や補習実習といった形をとり、学内で実施した。普段から接している教員と学習を進めていくことで実習先では聞けないこともその場で学習できてメリットがあった。患者役には校長先生などに入っただき、細かな患者設定のもと、対応力を身に付ける訓練も実施した。

西川様（企業等評価委員）

学校は常に変化していると感じる。今後、デジタルなども流行で入ってくるとは思うが、そこに力をいれるだけではなく、いままでの学校としての良さも残してほしい。人と人とのつながりを大切にしてほしい。

5. 閉会の挨拶

仁泉副委員長

本日はお忙しい中、本校のためにお時間を頂戴しありがとうございました。耳の痛い話もありましたが、今後も正直に運営していく事をお約束します。

本日いただいたご意見は、学校運営にいかしてまいります。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。